

## 2013 年度 第 2 回 環境災害対応委員会 議事録

日時：2013 年 10 月 5 日 13 時 30 分～16 時

場所：フラクシア品川 D 会議室

出席者：松本 淳（委員長）、奥村 晃史（副委員長）、石原 正仁（日本気象学会）、  
宇根 寛（日本地図学会）、加藤 俊吾（大気化学研究会）、  
川畑 大作（日本地質学会）、小荒井 衛（日本地質学会）、  
須貝 俊彦（日本地理学会、書記）、後藤 真太郎（地理情報システム学会）、  
中村 尚（日本気象学会）、林 武司（日本地下水学会、日本水文科学学会）、  
真木 雅之（水文・水資源学会）、松島 大（水文・水資源学会）

### 1. 前回議事録の承認

原案通り承認された。

### 2. 2013 年度前半の活動報告

出席委員から、各学協会の取り組みについて、配布資料等にもとづき下記の報告がなされた。委員欠席の一部学協会についても、松本委員長から配布資料に基づき紹介がなされた。

- ・日本地質学会（小荒井）：9 月 15 日に東北大でシンポジウム開催、特別セッション 10 名口頭発表、市民講演会（柳田國男氏）他。
- ・日本地理学会（須貝）：9 月 28-29 日の秋季大会時に福島大学にて福島大学うつくしまふくしま支援センターと共催でシンポジウム開催。
- ・日本地下水学会（林）：地盤沈下対策後の地下水管理に関するシンポジウムを開催予定。
- ・日本水文科学学会（林）：窒素循環・汚染に関するシンポジウムを実施。
- ・地理情報システム学会（後藤）：10 月 26, 27 日大会時に、日韓 GIS シンポジウムを開催予定。
- ・日本気象学会：環境（中村）：5 月の春季大会時に地球環境に関するシンポジウムを、開催、11 月の秋季大会時に二酸化炭素研究に関するシンポジウムを開催予定。地球温暖化と原発放射能物質の沈着に関する解説本をそれぞれ刊行の予定。  
災害（石原）：連合大会時に極端気象のセッションを開催。
- ・水文・水資源学会（松島）：9 月 27 日に 25 周年シンポジウム「いま、そしてこれから水文・水資源学会は何ができるか？何をなすべきか？」を開催。
- ・大気化学研究会（加藤）：PM2.5 関連のシンポジウムを開催。11 月に年会を実施予定。

### 3. 2014 年度連合大会へ向けてのセッション提案について

2014 年度の連合大会は 4 月 28 日（月）～5 月 2 日（金）（於、横浜パシフィコ）開催。

- ・人間環境と災害リスク：青木ほか（共催）
- ・都市における極端気象：真木ほか（国際セッション、共催）
- ・福島事故放射性核種：北ほか（共催）

- ・ユニオンセッション：未定（その後の理事会で主催することが決定）

#### 4. 緊急災害時の連合での対応マニュアルについて

日本地質学会、日本地理学会からの報告を受けてから、以下のフリーディスカッションを行い、今後の取り組みの参考とすることとした。

- ・環境災害委員会が各学協会とのパイプ役を果たすのであれば、各委員がそのような意識を共有することが重要との指摘があり、そのような意識共有の必要性を確認した。
- ・松本委員長から配布された、学術会議からの要望に対する検討を行った。
  - ・連合以外の工学系の分野（土木学会、建築学会、地盤工学）との連携が重要
  - ・東日本大震災後、学術会議は連続シンポジウムを開催。次回は11月に開催予定。工学系が中心だが、理学系も入っており、連合も入るのは一案。地惑委員会の永原委員長を通しての打診をするのが一案。
- ・地理院など行政機関との連携を深めていく必要がある。
- ・緊急セッションのポスターは pdf にして、アクセスできるようにしてはどうか（AGU を参考）。

アブストラクト集の出版なども検討してはどうか。

- ・内閣府の調査団は行政主体、そこに科学者が入れれば非常に良い。火山災害の場合、噴火予知連を通じて、ホームドクター的な学者が直接行政に関われるルートができています。
- ・GIS 系学会の防災グループでは、東日本大震災時にオルソフォトを自主的に作成したり、特定自治体に入り込んで被災証明をしたりした。予算も学会で確保した。

#### 5. その他（松本）

- ・2014年1月に連合はオープンアクセス・電子ジャーナルを新たに発刊の予定。連合大会セッションコンビーナが論文執筆者を推薦する制度があるので関連するセッションからの推薦を期待。